

令和 6 年 年頭ご挨拶

日本製薬団体連合会
会長 岡田 安史

令和 6 年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は医薬品産業の大転換へとつながる改革が打ち出された 1 年となりました。保険財政の逼迫から平成 30 年の薬価制度抜本改革をはじめ様々な薬価引き下げ策が講じられてきた結果、日本の医薬品市場は魅力度を失いドラッグラグ・ロスが顕在化しています。また、急激な後発品使用促進策は多くの企業の参入を促し少量多品目生産の産業構造を作り出すとともに、過当競争が繰り広げられることとなりました。そうした中で GMP 違反に端を発した供給不安が、その産業構造も相まって長期化しております。

こうした医薬品産業を取り巻く様々な課題の解決に向けて、厚生労働省の「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合政策に関する有識者検討会」では、安定供給の確保、創薬力強化、ドラッグラグ・ロスの解消、適切な医薬品流通の実現、過度な薬価差の偏在の是正など、かつてない重要な議論がなされ、対策の大きな方向性が示されました。そういった流れの中で取りまとめられた令和 6 年の薬価制度改革骨子には、迅速導入加算の新設や新薬創出等加算における企業指標に基づく加算係数の設定の廃止などイノベーションの評価を促進する多岐にわたる改革が盛り込まれました。また、政府は「バイオ戦略」のもとでグローバルバイオコミュニティ形成や創薬ベンチャー支援の強化など創薬エコシステム構築に向けた取り組みを本格的に進めております。イノベーションの創出とその適切な評価を両輪とする科学技術立国への転換に大きく舵を切ったと強く感じております。

安定供給の確保の観点からは、令和 6 年の薬価制度改革骨子にて基礎的医薬品の要件見直しや不採算品再算定の柔軟かつ確実な適用などの対策が講じられることとなりました。また、後発品については、安定供給の確保が可能な企業を可視化できる企業指標が導入され薬価上の評価にも用いられることとなりました。今回の制度改革は安定供給に係る問題の抜本的解決に向けて大きな一歩を踏み出したものと認識しております。

現在日本の創薬力強化に向けた司令塔機能や国家戦略に関する議論が進められており、薬価制度については革新的新薬における適切なイノベーションの評価の在り方、過度な薬価差の偏在の解消に向けた流通や薬価改定方式の見直しなど解決すべき課題が残されております。医薬品業界はこれらの課題に真摯に向き合い、引き続き関係者と議論を尽くします。そして、我々の使命である革新的な医薬品の創出と高品質の医薬品の安定供給に全力を注ぎ、国民の皆様の健康寿命の延伸に貢献するとともに、世界で戦う基幹産業として日本経済の成長に貢献していく所存です。

皆様のご理解、ご支援をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

(以 上)